

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.26

平成29年
5月8日

支援しているつもりがされている

今回の通信は、極めて私事の内容となりました。

私（事業所管理者）は、大学卒業には通常より時間がかかり、その際、お世話になったのが最首教授でした。といっても、まじめに大学生活を送っていたわけではないので、授業の内容もほぼ覚えていないのが正直なところです。ほぼ覚えていないなかで、“利己的なわたし”について考えさせられた授業は覚えています。つい先日、最首教授の記事「ケアされているつもりがされている」を読んで、いまの自分自身と照らし合わせると、まさに、どんぴしゃ！とあてはまることが書いてありました。

「リーダー性ということを考える。先頭に立つ、音頭を取る、言いだしっぺなど、払げてゆくと能動性になる。能動性は受動性と対である。「あなたーわたし」という二者性では、この能動性が固定されず入れ替わってしまう状態がある。ともに生きるとよくいうけれど、能動性と受動性が入れ替わりながら、どっちがどっちだかごちゃごちゃになってしまう、というような有様を指しているのだ。（中略）右手と左手を組んで引っ張り合う、手の位置が動かないようにする。すると引っ張ってどっちが絶えているのか、わからなくなる。そう思うのはわたしである。では右手があなたで、左手がわたしとすると、そう思うのは誰だろう。」

大学時代は大学で何をするか見つからなかったので大学以外の場所で過ごすことが多く、学童保育のアルバイトをきっかけに、漠然と「人に携わる仕事」を探し、知人の紹介により愛知で障がい者施設で働くことに。子どもが生まれ、障がいを抱えていたことから事業所の立ち上げに考えに至ります。過去を振り返れば、自分の意思で選択したというよりも、“利己的なわたし”を追求したことで、自分の置かれた環境からおのずと導かれたと感ずることがあります。

そして、毎日を“たいにい・ぼっくす”で過ごしていると、子どもたちに気付かされたり、考えるきっかけをつくってもらったりすることが多くあります。右手は子どもたちで、左手はスタッフ。“たいにい・ぼっくす”は、誰がつくっていて、誰を成長させてくれているのでしょうか。様々な視点から考えるのは大切で、たまに、ごちゃごちゃになりますが、“たいにい・ぼっくす”は、確かに、ともに生きています。

たいにいの かつどう



【音の時間】

音の時間は、歌、踊り、演奏などを楽しんでいます。歌では指揮者が登場するようになりました。



【掃除の時間（左）・お買い物 WEEK（右）】
「はい、どうぞ」と、お買い物 WEEK もそれぞれが楽しめるようになりました。



【体制のお知らせ】

小松静香スタッフ



につきまして、

8月度より、産児・育児休暇
期間に入る予定です。

4月度より、岡本理沙スタッ
フが勤務しております。

【6月イベントの予定】

父の日 創作活動

【6月休業日】

3日 4日

10日 11日

17日 18日

24日 25日

